

散策イラストマップ

くろだおつかこふん
① 県史跡 黒田大塚古墳 (大字 黒田)



6世紀初頭の前方後円墳で、全長は86mを測る。6次に及び発掘調査で周濠や埴輪・蓋形木製品が出土した。奈良盆地低地部では、墳丘が残る数少ない古墳で県の史跡に指定されている。

かがみつくりじんじゃ
② 鏡作神社 (大字 八尾)



天照国照日子火明命・石凝姥命・天糠戸命を祭神とする式内社。この地は古代鏡作集団がいたとされる鏡作郷「倭名抄」に比定され、神宝として「三神二獸鏡」が所蔵されている。

じょうしょうじ
③ 浄照寺



慶安4年(1651)、平野長勝によって創建。この地には教行寺が所在したが、平野氏との支配権をめぐる争いから退去を命じられ、跡地に浄照寺が建てられた。本堂は県の指定文化財となっている。

ほんせいじ
④ 本誓寺



浄照寺と同様に、教行寺の跡地に建立され、平野家の菩提所と定められた。境内には、二代目長勝・九代目長発の霊廟が建てられている。

⑤ 歴史ある町並み



文禄4年(1595)、平野権平長泰は「賤ヶ岳の戦い」での功績が認められ、田原本に五千石の領地が与えられた。二代目の長勝が陣屋を建造し(現町役場付近)、奈良と吉野を結ぶ交通の要衝として発展した。陣屋は残っていないが、古い町の面影がある。

つしまじんじゃ
⑥ 津島神社



かつては祇園社と呼ばれ、牛頭天王を祭神とした。江戸時代に領主平野家の尊崇をあつめたが、平野氏の本貫地である尾張国の津島社も、牛頭天王を祭神としたため、明治2年(1869)、社名を津島神社と改めた。

くす きよじゅ
⑦ 樟の巨樹 (大字 葉王寺)



八幡神社境内にある巨木。高さ約30m、幹まわり約6mを測る。樹齢はおおよそ550年と推定され、県の指定文化財(天然記念物)に指定されている。



からこ かぎ
⑧ 唐古・鍵遺跡史跡公園 (平成30年オープン)

国史跡に指定された弥生時代を代表する環濠集落跡にできる史跡公園。当時の環濠や草木を復元して「弥生の風景」を再現すると共に、さまざまな「弥生の体験・学習」ができる。



動画を見る

せんまんいん
⑨ 千萬院 (大字 法貴寺)



もとは千萬寺と呼ばれ、法貴寺塔頭であった。法貴寺は聖徳太子の創建と伝えられ、後に秦河勝がこれを受け継いだとされている。千萬院の不動明王立像は平安後期の作とされ、国の重要文化財に指定されている。

いげじんじゃ
⑩ 池神社 (大字 法貴寺)



天万栲幡千千比売命・菅原道真を祭神とする式内社。秋の例祭には、各垣内から5台の山車が繰り出し、神事に彩りを加えている。

むらやしんじゃ
⑪ 村屋神社 (大字 蔵堂)



弥富都比売命・大物主命を祭神とする式内社。「日本書紀」には、壬申の乱に際し大海人皇子軍に神託を与えたとの記述がある。境内にはイチイガンなどの極相林が残されており、県の天然記念物に指定されている。

ふがんじ
⑫ 補巖寺 (大字 味間)



至徳元年(1384)に創建された。大和では初めて建立された禅宗寺院で、室町期には十市氏の菩提寺となった。了堂派の総本山として崇敬をあつめ、能楽の基盤を築いた世阿弥も、二代目の竹窓智蔵に師事している。

じんらくじ
⑬ 秦楽寺 (大字 秦庄)



大化3年(647)、秦河勝の建立と伝えられる。本堂の千手観音像は、百濟から聖徳太子に献じられたもので、河勝が太子より賜ったものという。また境内の「阿字池」は、弘法大師が築造したと伝えられている。

おおじんじゃ
⑭ 多神社 (大字 多)



神武天皇・神八井耳命・神淳名川耳命・姫御神を祭神とする式内社。「古事記」を編纂した太安万侶も祀られており、大和屈指の規模を誇る。また本殿は県指定文化財となっている。